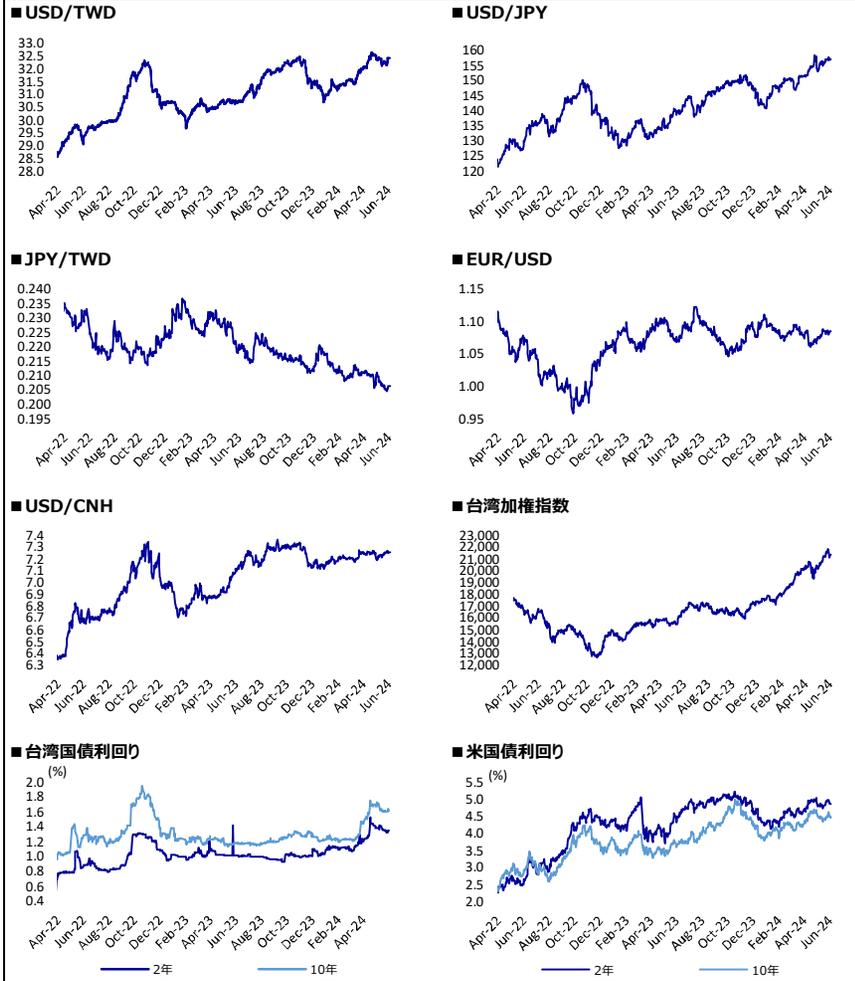


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/27は32.230でオープン後、堅調な米国経済指標を背景に米金利が上昇する中、ドル買いの圧力が高まるも、台湾加権指数の上昇を受けリスクセンチメントが改善し、台湾ドル買いも見られる展開に。売り買い交錯となり32.15を挟み揉み合いの推移。5/28は、台湾加権指数が史上最高値を更新する中、外国人投資家による台湾ドル買いの圧力が一段と高まり、一時32.125まで下落した。5/29は、前日海外時間に発表された米5月カンファレンスボード消費者信頼感指数が市場予想を上回る結果となったことを受けて米金利が上昇。ドル買いが優勢な展開となり32.30近辺まで上昇。5/30は、米金利が約一か月振りの高値を付けていたことを受けてリスクセンチメントが悪化。外国人投資家による台湾株売りがまとまった額で見られ、台湾ドル売りが優勢な展開に。32.40台半ばまで上昇した。5/31は、台湾株の下落が継続する中、台湾ドル売りが継続し一時32.485まで上昇。その後は輸出業者による月末の外貨売りが見られ、32.40近辺で上値重く推移した。最終的には前週比0.5%ドル高台湾ドル安の32.420で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,030.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/27は157.01でオープン後、米国休場となる中、方向感に欠ける展開となり156円台後半で揉み合いの推移。5/28は、海外時間に発表された米5月カンファレンスボード消費者信頼感指数が市場予想を上回る結果となったことを受けて、ドル買いが優勢な展開となり157円台前半まで上昇。5/29は、海外時間寄り付きで発表された独5月CPIが市場予想を上回る結果となったことを受けて欧米金利が上昇。ドル買いの圧力が一段と強まり、一時157.71まで上昇した。5/30は、海外時間に発表された米第1四半期GDPと米第1四半期PCEが市場予想を下回る弱結果となったことを受けて米金利の低下が加速し、ドル売りが優勢な展開となり一時156.36まで下落。5/31は、財務省による為替介入実績が9.7兆円程と市場予想対比大きかったことが発表されると、円売りが優勢となり157円近辺まで上昇。最終的には前週比0.2%ドル高円安の157.25で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.100-32.400
今週は上値の重い推移を見込む。米金利の低下を受けて台湾株の下落が一服する場合、台湾ドルが買い戻される展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：156.00-159.00
今週は揉み合いの推移を見込む。翌週中に日米中銀会合が控える中、様子見姿勢が強まり、方向感に乏しい展開となるであろう。

今週の予定

6/3 (MON)	米5月ISM製造業景況感指数
6/4 (TUE)	
6/5 (WED)	米5月ISMサービス業景況感指数
6/6 (THU)	台湾5月CPI、米4月貿易収支
6/7 (FRI)	台湾5月貿易収支、米5月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。